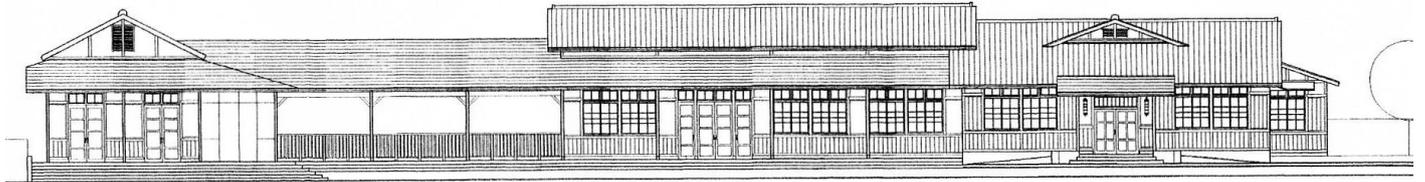


JR畝傍駅のもうひとつの顔

貴重な鉄道史が八木の身近な駅にあります



今回はおなじみの「畝傍駅」を取り上げます。

現 在はJR西日本の駅ですが、最初は大阪鉄道という私鉄が、明治20年、大阪湊町から畝傍御陵への参拝を目的に計画を始め、御陵近くの今井に駅を作る計画が進められていました。当時の鉄道は神社仏閣参りなどの観光のために敷設されることが一般的でした。畝傍御陵の参拝用の駅ですから「畝傍駅」だったわけです。しかし、当時の今井の人たちは、今では考えられない理由で反対し、駅の計画は八木に移されることになり、名前がそのまま残ったということです。八木にあって畝傍駅と呼ぶのはこのようなわけがあったのです。

駅が開業した明治26年当時の畝傍駅界隈は八木の町はずれでしたが、駅ができることで、まちの中心が、南北の下ツ道から駅前の東西の道になりました。その後、この駅の近くに役場、銀

行、郵便局、旧制畝傍中学校が設けられるのも無関係ではありません。この鉄道が下ツ道を横切るところには、踏切の他に、今の言葉で言えば「跨線橋」が設けられていましたが、この跨線橋は近年撤去されました。

畝傍駅は畝傍御陵に参拝される皇族の乗降駅として活用され、貴賓室が設けられた数少ない駅でもありました。明治26年築の駅舎は昭和天皇御大典記念として昭和3年に建替えられました。残っている写真によると、この駅も白ペンキ塗の洋館だったようです。

その後昭和15年の紀元2600年に、橿原神宮を中心として国家プロジェクトが行われることとなり、駅舎の建替えが行われました。現在ある三代目の駅舎です。この駅舎は橿原神宮造営で使われた台檜(台湾産檜材)をこの駅でも採用し、駅舎が白木造といういかにも神道を思わせる建築に仕上げたところが特徴です。当時は大量の乗降



客をさばけるよう、団体待合室を設置していたのですが、この部分は取り壊されました。現存する貴賓室は、照明器具・家具が取り払われて、過去の面影はありませんが、ここに設置されていたシャンデリアが、JR西日本に保管されていることが分かりました。

また、現存する東行きプラットフォームは昭和3年の標識があり、築83年という古い建築です。反対の西行きプラットフォームは記載がありませんが、装飾などから推定すると東行きより古いようです。

これ以外にもプラットフォームがあり、それが吉野鉄道でした。この鉄道は駅から東に大きくカーブして橿原神宮駅を経て吉野に至る鉄道でした。この鉄道は現在ありませんが、線路を敷設してあった場所の痕跡は町の中に残っています。また、この鉄道敷設に必要な土砂は近くを掘削し、そこを池にしたと云われています。

